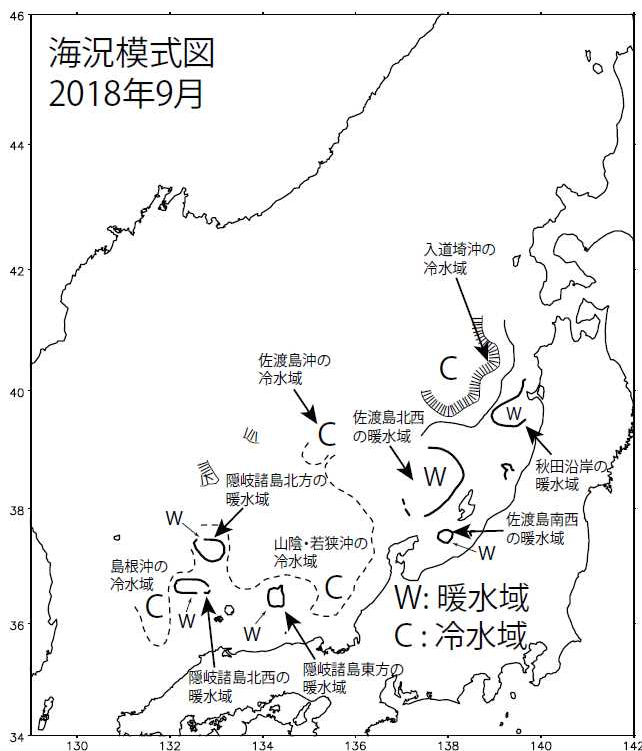


平成30年度 第3回 日本海海況予報

ー 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
 日本海区水産研究所がとりまとめた結果 ー

今後の見通し(平成30年10月中旬～12月)のポイント

- ・対馬暖流域の表面水温は”やや高め”で経過する。
- ・対馬暖流域の50m深水温は日本海北部及び西部ともに”平年並み”で経過する。



2018年10月中旬～12月の海況

- 隠岐諸島北西の暖水域は北上し、隠岐諸島北方の暖水域と合体して隠岐諸島北方で勢力を拡大。
- 隠岐諸島東方の暖水域は北東に進み、能登半島北方に分布。
- 佐渡島北西の暖水域は停滞し、南西から進んでくる隠岐諸島東方の暖水域と合体することで勢力を拡大。
- 佐渡島南西の暖水域は北東に進み山形西方に分布。
- 島根沖の冷水域の張り出しは、規模・接岸距離ともに平年並み。
- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しはかなり大きくやや接岸で経過。
- 佐渡島沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくかなり離岸で経過。
- 入道埼沖の冷水域の張り出しは規模・接岸距離ともに平年並みで経過。

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所

担当：業務推進部 加藤、後藤

資源環境部 渡邊、井桁

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

平成30年度 第3回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2018年10月中旬～12月）

- (1) 隠岐諸島北西の暖水域は北上し、隠岐諸島北方の暖水域と合体して隠岐諸島北方で勢力を拡大する。隠岐諸島東方の暖水域は北東に進み、佐渡島北西の暖水域と合体して能登半島北方域に大型暖水域を形成する。佐渡島南西の暖水域は北東に進み山形西方に分布する。秋田沿岸の暖水域は北上し津軽半島沿岸に分布する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、規模・接岸距離ともに平年並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しはかなり大きくやや接岸で経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくかなり離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは規模・接岸距離ともに平年並みで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海北部及び西部ともに“平年並み”で経過する。

2. 経過（2018年6月～2018年8月）

- (1) 6月に隠岐諸島北方で見られた暖水域は7月に南下した後に8月まで停滞し隠岐諸島北東に分布。6月に隠岐諸島東方と但馬北方に見られた2つの暖水域は7月に消滅。6月に能登半島西北西に見られた暖水域は7月に北上した後、8月には東進し佐渡島北西に分布。6月に富山湾～新潟沿岸に見られた暖水域は7月に東進し、8月には佐渡島南西に分布。6月に佐渡島沿岸～津軽半島西岸に見られた暖水域は7～8月は勢力を維持しつつ停滞。
- (2) 島根沖の冷水域は、6月は規模は平年並みで離岸距離はやや離岸、7月は規模は平年並みでやや接岸、8月は規模、接岸距離ともに平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、6月は規模、接岸距離ともに平年並み、7、8月はかなり大きくやや接岸。佐渡島沖の冷水域は、6月はかなり小さくやや接岸、7月はかなり小さくやや離岸、8月はかなり小さくかなり離岸。入道埼沖の冷水域は、6月は規模は平年並みでやや離岸、7～8月は規模、接岸距離ともに平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
6月は、対馬暖流域の表面水温は、島根沿岸、隠岐諸島周辺、鳥取沿岸、石狩湾以北の北海道西岸で“かなり高め”～“はなはだ高め”以外は、概ね“平年並み”。7月は、山形沿岸、秋田沿岸で“かなり高め”～“はなはだ高め”、奥尻島西方、利尻、礼文島西方で“かなり低め”～“はなはだ低め”。8月は、能登半島周辺、佐渡島南東、留萌沿岸で“かなり高め”～“はなはだ高め”以外は概ね“やや高め”～“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、6月は日本海北部は“やや高め”、日本海西部は“平年並み”。

3. 現況（2018年9月）

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北西、隠岐諸島北方、隠岐諸島東方、佐渡島北西、佐渡島南西、秋田沿岸に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模はかなり小さく、接岸状況は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、やや大きくやや接岸。佐渡島沖の冷水域は、かなり小さくやや離岸。入道埼沖の冷水域は、やや小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、但馬～丹後半島東方、新潟沿岸で“やや高め”、山口北方、青森西方で“やや低め”～“かなり低め”以外は概ね“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海北部、西部ともに“平年並み”。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| “はなはだ高め(低め)” | : 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ(低さ) |
| “かなり高め(低め)” | : 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ(低さ) |
| “やや高め(低め)” | : 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ(低さ) |
| “平年並み” | : 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産試験場	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所